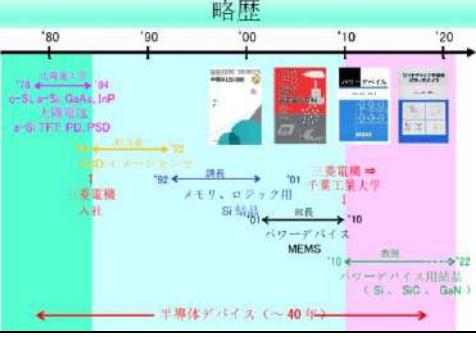
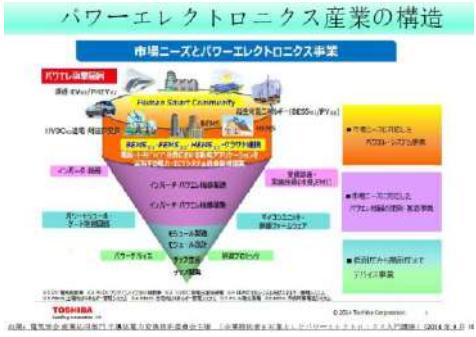
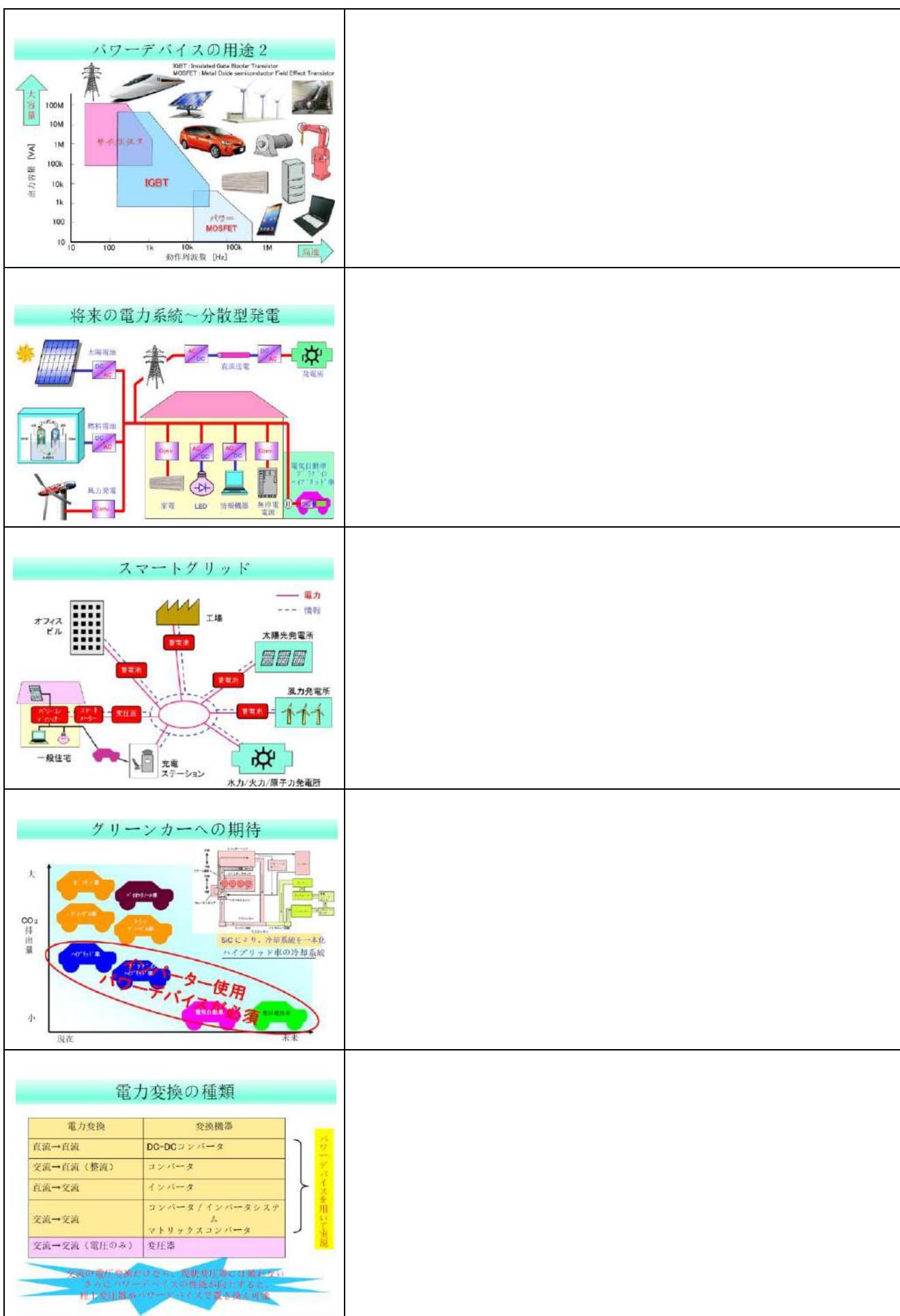


■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>WBG パワーデバイスの技術開発動向</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 3. WBG パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 <p>千葉工業大学 山本秀和 yamamoto.hidekazu@it-chiba.ac.jp</p>	
<h3>略歴</h3> 	
<h3>パワエレ / パワーデバイス産業の動向</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 1-1. パワエレ産業とパワーデバイス 1-2. パワーデバイスの構造 1-3. パワーデバイスの技術開発動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 3. WBG パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 	
<h3>パワーエレクトロニクス産業の構造</h3> 	
<h3>パワーデバイスの用途 1</h3> 	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

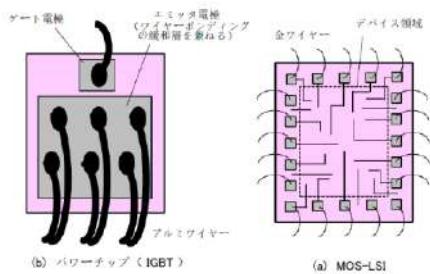


■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

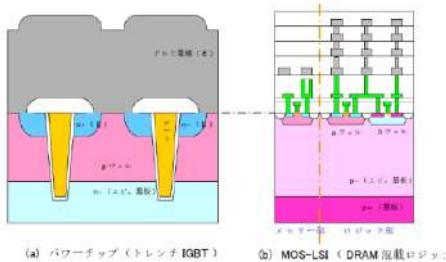
<h3>コンバータ / インバータシステム</h3>	
<h3>電力変換とパワーデバイスの損失</h3>	
<h3>パワエレ / パワーデバイス産業の動向</h3> <div style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid #ffcc00; padding: 10px;"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 1-1. パワエレ産業とパワーデバイス 1-2. パワーデバイスの構造 1-3. パワーデバイスの技術開発動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 3. WBG パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 </div>	
<h3>パワーデバイスの構造 (LSIとの比較)</h3>	
<h3>パワーチップの耐圧保持</h3>	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】 山本講師

半導体デバイスの電極構造

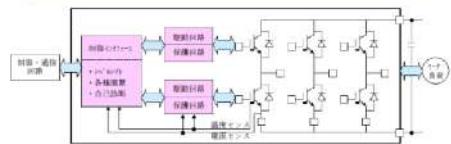


表面構造の比較

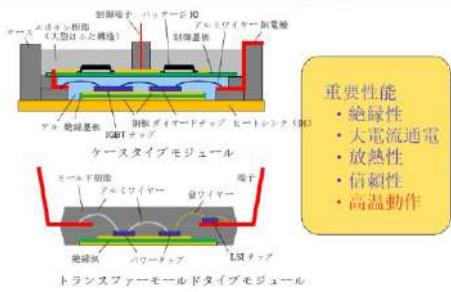


IPM : Intelligent Power Module

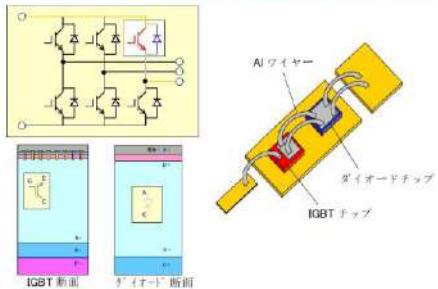
IPMとは、
スイッチング素子、駆動回路、保護回路、
その他の機能を一つのパッケージに組み
込んだモジュール



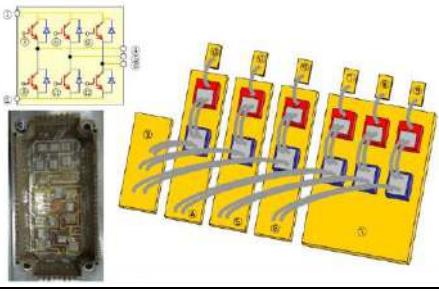
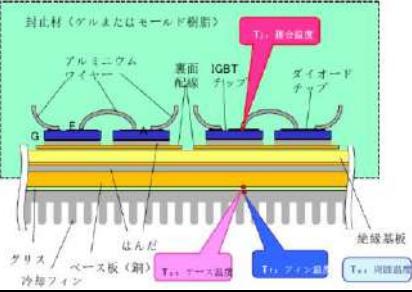
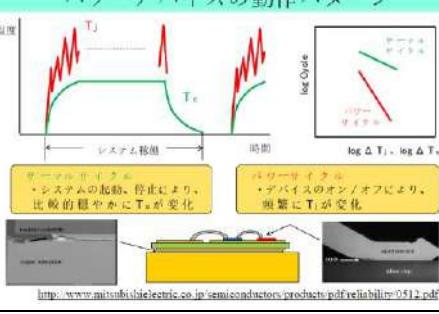
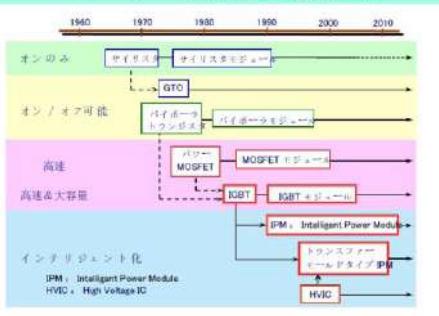
パワーモジュールの構造



パワーチップのモジュール化1



■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

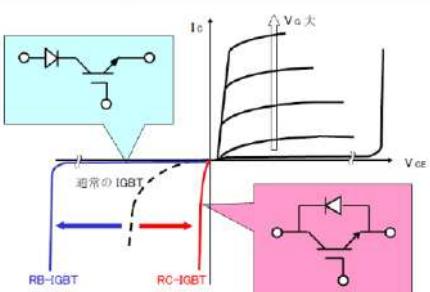
<h3>パワーチップのモジュール化2</h3> 	
<h3>パワーモジュール構造と各部の温度</h3> 	
<h3>パワーデバイスの動作パターン</h3>  <p>サーマルサイクル ・システムの起動、停止により、比較的穏やかに T_c が変化</p> <p>パワーサイクル ・デバイスのオン／オフにより、頻繁に T_j が変化</p> <p>http://www.mitsubishielectric.co.jp/semiconductors/product/pdf/reliability/0512.pdf</p>	
<h3>パワエレ / パワーデバイス産業の動向</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 <ul style="list-style-type: none"> 1-1. パワエレ産業とパワーデバイス 1-2. パワーデバイスの構造 1-3. パワーデバイスの技術開発動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 3. WBG パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 	
<h3>パワーデバイスの進化の歴史</h3>  <p>IPM : Intelligent Power Module HVIC : High Voltage IC</p>	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>IGBT の大容量化</h3> <p>耐圧は、ウェハ厚で律連</p> <p>電流</p> <p>電圧</p> <p>年</p>	
<h3>パワーデバイスの開発の柱</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■ 高性能化：微細化、構造改良 ⇒ サブミクロン化、新構造 ■ 低コスト化：低価格ウエハ、大直径化、プロセス安定化 ⇒ 大直径FZ ウエハ+FS 構造 パワーチップの技術開発 ■ 多機能化：IGBTとDiodeの一体化 ⇒ 逆導通IGBT、遮止IGBT ■ 新材料：Siの限界を超える材料 ⇒ SiC, GaN(Ga₂O₃, C)  	
<h3>IGBT の縦構造</h3> <p>(a) ノンハンチスルーライド型 (NPT型)</p> <p>(b) ハンチスルーライド型 (PT型)</p> <p>(c) フィールドストップ型 (FS型)</p>	
<h3>薄ウエハプロセスフローの概略</h3>	
<h3>パワーデバイス用ウエハの選定</h3> <p>FZ + 薄ウエハ</p> <p>エビウエハ製造</p> <p>耐圧</p> <p>技術的難易度・コスト</p> <p>第7世代</p> <p>1500V程度以下の耐圧のデバイスはエビが有利</p> <p>600V程度の耐圧のデバイスでは薄ウエハのエビウエハが有利</p> <p>1200V程度の耐圧のデバイスはFZ化が進む</p> <p>2000V以上の耐圧のデバイスはFZのみ</p>	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

IGBT の多機能化



WBG パワーデバイスの優位性

1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向
2. WBG パワーデバイスの優位性
 - 2-1. 半導体の物性値
 - 2-2. WBG の優位性
 - 2-3. WBG パワーデバイスのターゲット
 3. WBG パワーデバイスの課題
 4. 日本の地位と将来展望

半導体の物性値比較

	3C-Si	3C-GaAs	3C-SiC	6H-SiC	4H-SiC	2H-GaN	α, β -GaN	3C-C
バンドギャップ E_g [eV]	1.1	1.4	2.2	3	3.26	3.39	4.8 ~4.9	5.45
バンドタイプ	間接	直接	間接	間接	間接	直接	直接 間接	間接
比誘電率 ϵ	11.8	12.8	9.6	9.7	10	9	10	5.5
電子移動度 μ [cm ² /Vs]	1350	8500	900	370	720	900	300	1900
絶縁破壊電界 E_b [$\times 10^3$ V/cm]	0.3	0.4	1.2	2.4	2.8	3.3	4 ~8	~10
電子飽和速度 v_{sat} [$\times 10^6$ cm/s]	10	20	20	20	20	25	-	27
熱伝導率 κ [W/cmK]	1.5	0.5	4.5	4.5	4.5	1.3	-	20.9 33

ワイドギャップ半導体の優位性

原子半径							
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
H							He
Li	Be	B	G	N	O	F	Ne
Mg	Al	Si	P	S	Cl	Ar	
K	Ca	Ge	As	Se	Br	Kr	

原子半径小元素で構成された半導体 ⇒ 結晶の結合が強固、ワイドギャップ半導体
 原子半径順位 Si: 0.285nm, SiC: 0.186nm, C(ダイヤモンド): 0.154nm
 合金組成 ⇒ 電気的、熱的、機械的、化学的に安定 ⇒ 調査の割合

	3C-Si	3C-GaAs	3C-SiC	6H-SiC	4H-SiC	2H-GaN	α, β -GaN	3C-C
バンドギャップ [eV]	1.1	1.4	2.2	3	3.26	3.39	4.8 ~4.9	5.45
絶縁破壊電界 [MV/cm]	0.3	0.4	1.2	2.4	2.8	3.3	4~8	5~10

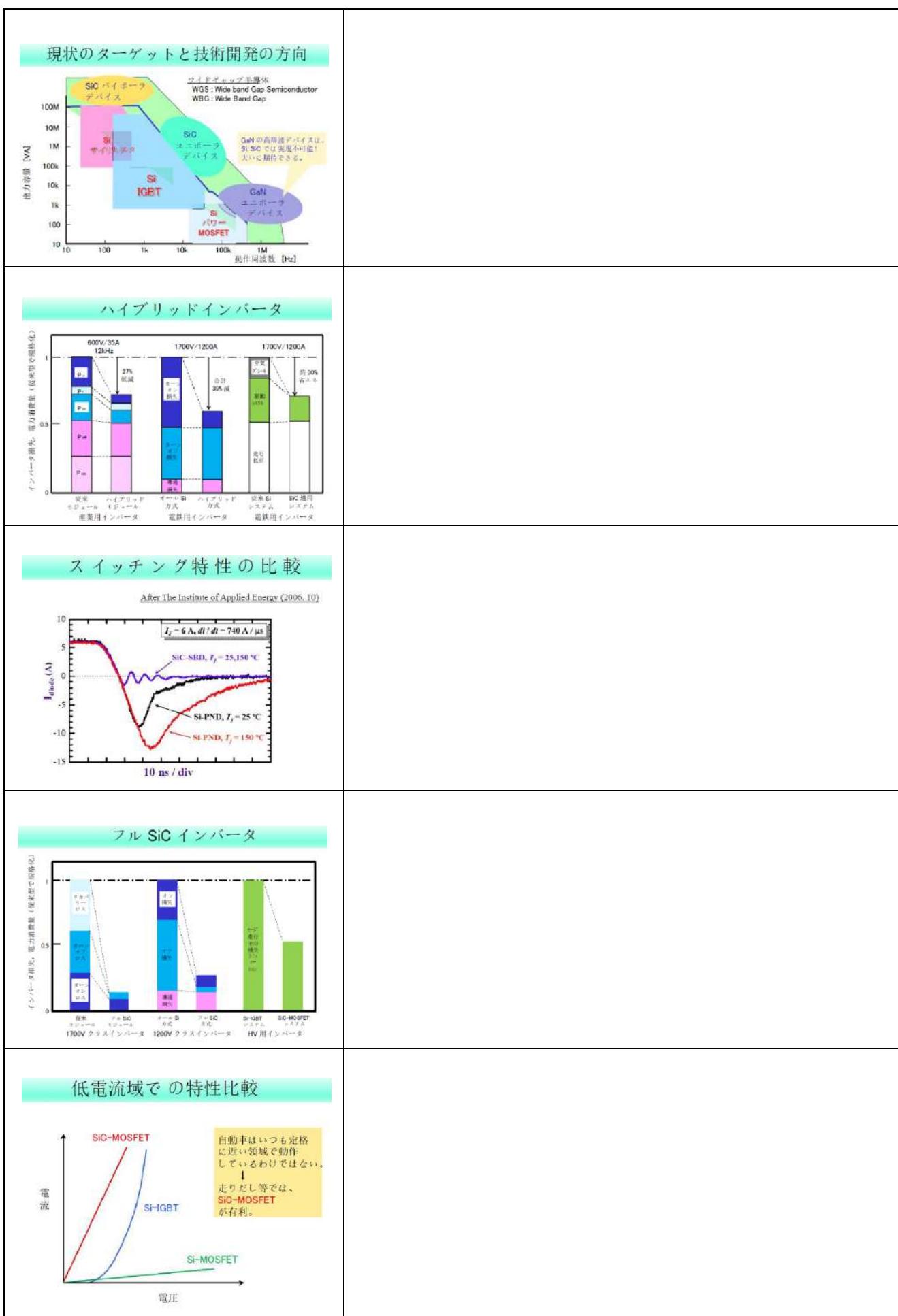
WBG パワーデバイスの優位性

1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向
2. WBG パワーデバイスの優位性
 - 2-1. 半導体の物性値
 - 2-2. WBG の優位性
 - 2-3. WBG パワーデバイスのターゲット
 3. WBG パワーデバイスの課題
 4. 日本の地位と将来展望

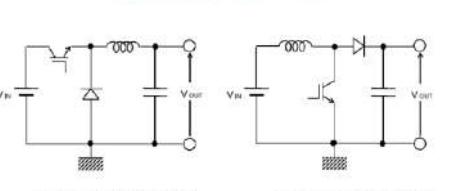
■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>ワイドギャップ半導体への期待</h3>	
<h3>WBG への期待</h3>	
<h3>真性キャリア密度の温度依存性</h3>	
<h3>WBG パワーデバイスの優位性</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 <ul style="list-style-type: none"> 2-1. 半導体の物性値 2-2. WBG の優位性 2-3. WBG パワーデバイスのターゲット 3. WBG パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 	
<h3>WBG による用途拡大</h3>	

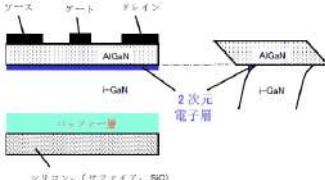
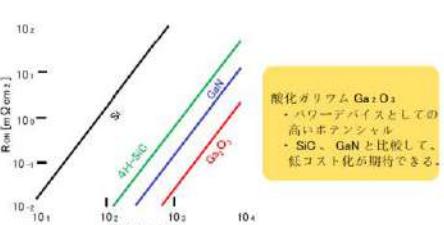
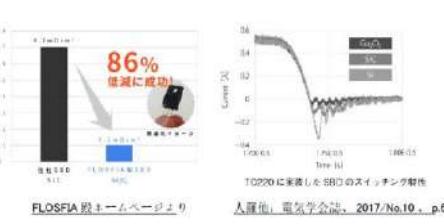
■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師



■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>三菱電機のフル SiC インバータ</h3> <p>2015年6月22日 三菱電機ニュースリリー</p>  <p>小田急電鉄1000形リニューアル車 フルSiC適用VVVFインバータ装置</p> <p>実証結果 (試験は2015年1月17日～6月8日に行った営業運転車両における実測値の平均値)</p> <ul style="list-style-type: none"> 走行時の力行電力量が約12%減少 電車の走行に使用した電力量が減少し、最速時の電力回生ブレーキで回収した回生電力量の比率である電力回生率が従来システムの3.11%から52.1%に向上 全体として約40%の省エネ効果を実現 	
<h3>WBG パワーデバイスの優位性</h3> <p>CEATEC2014 NEDOブース</p>  <p>モータードライブ車のパワーユニット フルSiC適用VVVFインバータ装置 宇宙空間ではワイン</p> <p>福島S&G発用技術（後）、コーム 加速器用（真空管→半導体） 試験の性能はSiを凌駕する GaNハワーコンディショナ 安川電機 小型化 宇航電機ニースリリー</p>	
<h3>一例～自動車用途</h3>  <p>トヨタ実現!! 第11回 PDEA パワーデバイスセミナー キヤノン燃料電池車 CLARITY DC-DCコンバータにSiCを適用 ハイブリッド車にSiCが適用できるかを シミュレーション ⇒歩留まりがSiと同じで価格が1.5倍 (夢のようを設定)なら、2030年に 適用可能(=事実上当面使えない)</p> <p>SiCを使いたい エンジンルーム に嵌りきれない</p> <p>酸素／空気 燃料電池 この方向から だと見えない</p> <p>ヒートコンダクター 水素供給システム ヒートオパンチャージ 水素タンク 水</p>	
<h3>AC アダプター</h3>  <p>重くて 大きいのは コイルと コンデンサー</p>	
<h3>DC-DC コンバータ</h3>  <p>降圧チャップ回路 ($V_{in} > V_{out}$) 昇圧チャップ回路 ($V_{in} < V_{out}$)</p> <p>コイルにエネルギーを蓄えることによって、 直流の降圧も昇圧も可能</p>	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>コイル、コンデンサの性能</h3> <p>コイル（インダクタ）の性能 $\omega \times L$</p> <p>ω: 角周波数 ($2\pi f$, f: 周波数) L: 材料、形状できる範囲 ⇒ 大きくするには体積、重さが大きくなる</p> <p>コンデンサ（キャパシタ）の性能 $\omega \times C$</p> <p>C: 材料、形状できる範囲 ⇒ 大きくするには体積、重さが大きくなる</p> <p>コイルやコンデンサを大きく（重く）することは、周波数を高くすることは同等 高周波動作により装置を小型化できる</p>	
<h3>GaN パワーデバイスの特長</h3>  <p>ヘテロ接合 ⇒ 分極によるキャリアの生成 ⇒ 格子散乱、不純物散乱が少なく高速動作が可能</p>	
<h3>GaN パワーデバイスの実力</h3>  <p>トランジスター・モジュール・モジュール</p>	
<h3>酸化ガリウムの優位性</h3> 	
<h3>α酸化ガリウム SBD</h3>  <p>TO220に実装したSBDのスイッチング特性 入原他、電気学会誌、2017年10月、p.69</p> <p>FLOSFIA 設定ページより</p>	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3 style="background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px;">SiC パワーデバイスの課題</h3> <div style="background-color: #FFFACD; border: 1px solid #FFDAB9; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 3. WBG パワーデバイスの課題 <ol style="list-style-type: none"> 3-1. SiC パワーデバイスの課題 3-2. 高温モジュールの課題 3-3. GaN パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 </div>																											
<h3 style="background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px;">少量量産から本格量産へ</h3> <p>ユーザーは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性能に対し、必要以上に金を払わない。 ・コストメリットがなければ、適用評価はしない <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="background-color: #FFFACD; border: 1px solid #FFDAB9; padding: 5px; border-radius: 10px;"> 1 にコスト、2 に信頼性、 3、4 がなくて、5 に性能 量産性（＝コスト低減）がなければ、 Si には対抗できない！ ⇒ 第2の GaAs の道をたどる </p>																											
<h3 style="background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px;">SiC パワーデバイスの課題</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 90%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="vertical-align: top;">結晶/ウエハ 製造</td> <td>結晶育成</td> </tr> <tr> <td>・量産性向上難、転位/積層欠陥の低減要</td> </tr> <tr> <td>加工</td> </tr> <tr> <td>・硬いため加工が難しい</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="vertical-align: top;">チップ 特性/製造</td> <td>エビ成長</td> </tr> <tr> <td>・高温成長、欠陥制御</td> </tr> <tr> <td>イオン注入</td> </tr> <tr> <td>・200~500°Cの高溫アルミ注入</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="vertical-align: top;">モジュール構造/製造</td> <td>活性化熱処理</td> </tr> <tr> <td>・1700°C以上の高溫処理</td> </tr> <tr> <td>ゲート酸化</td> </tr> <tr> <td>・チャージ移動量、信頼性</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">トレンチ加工</td> <td>トレンチ加工</td> </tr> <tr> <td>・形状制御（電界集中、被覆性）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">モジュール構造/製造</td> <td>・ダイシング：硬いため加工が難しい</td> </tr> <tr> <td>・高温動作使用（200~500°C） 裏面電極、封止材、フィン構造、電流取出し等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">周辺部品（受動部品）</td> <td>・インダクタ、キャパシタとも高周波で損失大</td> </tr> <tr> <td>・磁性体、透磁体の材料開発から</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	結晶/ウエハ 製造	結晶育成	・量産性向上難、転位/積層欠陥の低減要	加工	・硬いため加工が難しい	チップ 特性/製造	エビ成長	・高温成長、欠陥制御	イオン注入	・200~500°Cの高溫アルミ注入	モジュール構造/製造	活性化熱処理	・1700°C以上の高溫処理	ゲート酸化	・チャージ移動量、信頼性	トレンチ加工	トレンチ加工	・形状制御（電界集中、被覆性）	モジュール構造/製造	・ダイシング：硬いため加工が難しい	・高温動作使用（200~500°C） 裏面電極、封止材、フィン構造、電流取出し等	周辺部品（受動部品）	・インダクタ、キャパシタとも高周波で損失大	・磁性体、透磁体の材料開発から	
項目	内容																										
結晶/ウエハ 製造	結晶育成																										
	・量産性向上難、転位/積層欠陥の低減要																										
	加工																										
	・硬いため加工が難しい																										
チップ 特性/製造	エビ成長																										
	・高温成長、欠陥制御																										
	イオン注入																										
	・200~500°Cの高溫アルミ注入																										
モジュール構造/製造	活性化熱処理																										
	・1700°C以上の高溫処理																										
	ゲート酸化																										
	・チャージ移動量、信頼性																										
トレンチ加工	トレンチ加工																										
	・形状制御（電界集中、被覆性）																										
モジュール構造/製造	・ダイシング：硬いため加工が難しい																										
	・高温動作使用（200~500°C） 裏面電極、封止材、フィン構造、電流取出し等																										
周辺部品（受動部品）	・インダクタ、キャパシタとも高周波で損失大																										
	・磁性体、透磁体の材料開発から																										
<h3 style="background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px;">昇華法による SiC 結晶の製造</h3>																											
<h3 style="background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px;">SiC パワーデバイスの本格量産に向けて</h3> <p style="text-align: center;">最大の足かせは結晶コスト！</p> <p style="text-align: center;">(引用: 朝日新聞 2014年12月3日)</p>																											

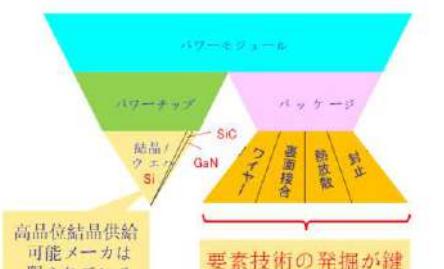
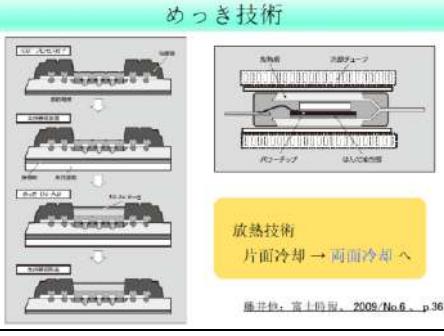
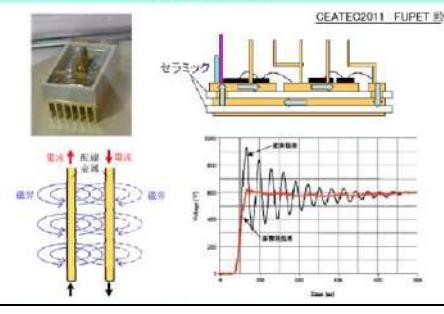
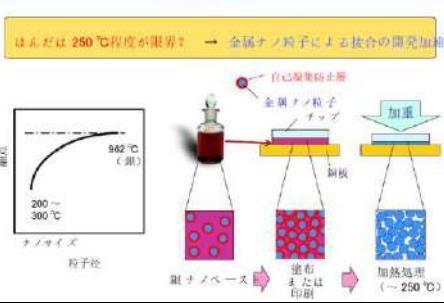
■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>Si vs SiC</h3> <p>SiC インゴット：150mm × 直径以下 NEDO 総合ページより</p> <p>導電性が大きい</p>	
<h3>昇華法 SiC の限界</h3> <p>CEATEC2017 ディスコ殿ブース</p> <p>トランジistorからの取扱い 20枚程度</p> <p>KABRAプロセスは、加工のプレーカブルーになり得る</p>	
<h3>種結晶の高品質化</h3> <p>c面またはm面成長 m面またはe面成長 RAFプロセス</p> <p>種結晶 誘導コイル 融液 断熱材 黒鉛つば 溶液法</p> <p>高品質の結晶を作成できる可能性はあるが、ともに量産には向かない</p>	
<h3>昇華法以外の挑戦</h3> <p>SiH₄, CH₄</p> <p>断熱材</p> <p>結晶成長の量産機としては、 150mmΦで、50cm～1m の結晶育成が要求される</p> <p>ガス成長法では、板状の通路供給が可能で、 引き上げ機構の付属により、 長尺結晶の製造が可能。 長時間高圧に耐えられる装置開発が鍵</p>	
<h3>MOSFET の製造プロセス～トレンチゲート</h3> <p>p+エビ n+基板(ドレイン) p+エビ n+エビ n+基板(ドレイン) p+ドレインゲート n+エビ n+基板(ドレイン) トレンチユカイ n+エビ n+基板(ドレイン)</p> <p>ゲート堆積膜 n+ドレイン ゲート電極 n+ドレイン ソース電極 n+ドレイン</p>	

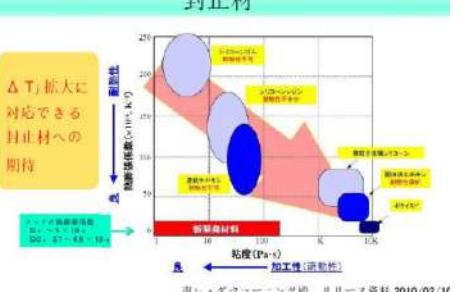
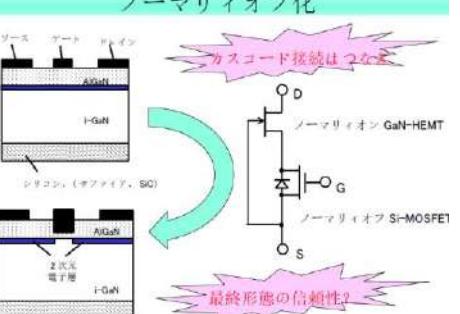
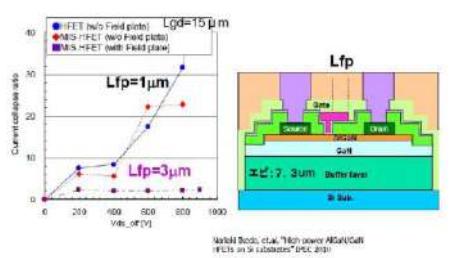
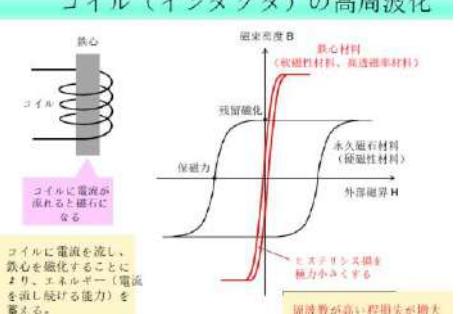
■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>SiC ウエハプロセスにおける高温処理</h3>	
<h3>トレンチ加工</h3>	
<h3>高温モジュールの課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 3. WBG パワーデバイスの課題 <ul style="list-style-type: none"> 3-1. SiC パワーデバイスの課題 3-2. 高温モジュールの課題 3-3. GaN パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 	
<h3>ダイシング</h3>	
<h3>高温対応モジュールの課題</h3>	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>パワーモジュールの開発</h3>  <p>高品位結晶供給可能メーカーは限られている 要素技術の発掘が鍵</p>	
<h3>表面接合</h3>  <p>・高電圧耐度化 ・伝導性向上 ・両面冷却</p> <p>DLB : Direct beam Lead Bonding 即二基面接合</p> <p>めっき回路基板&インサート</p>	
<h3>めっき技術</h3>  <p>放熱技術 片面冷却 → 両面冷却へ</p> <p>藤井伸, 富士回報, 2008/No.6, p.362</p>	
<h3>大電流通電</h3>  <p>CEATEC2011_FUPET 記</p>	
<h3>裏面接合</h3> <p>はんだは 250°C 程度が限界? → 金属ナノ粒子による接合の開発加速</p>  <p>自己発熱防止層 金属ナノ粒子チップ 加重 鋼板 塗布または印刷 加熱處理 (-250°C)</p>	

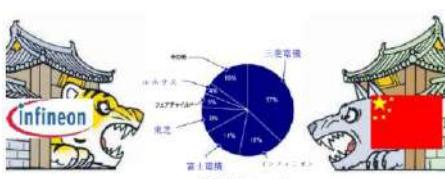
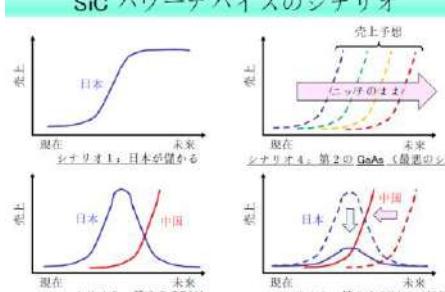
■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>封止材</h3>  <p>△T_j 植入に対する封止材への期待</p> <p>△T_j の実測結果 範囲: 14 ~ 42 °C</p> <p>粘度 (Pa·s) ← 加工性(運動性)</p> <p>東レ・ガラスコーニング㈱、リリース資料 2010/02/14</p>	
<h3>GaN パワーデバイスの課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1. パワエレ / パワーデバイス産業の動向 2. WBG パワーデバイスの優位性 3. WBG パワーデバイスの課題 <ul style="list-style-type: none"> 3-1. SiC パワーデバイスの課題 3-2. 高温モジュールの課題 3-3. GaN パワーデバイスの課題 4. 日本の地位と将来展望 	
<h3>ノーマリィオフ化</h3>  <p>ノーマリィオフ化</p> <p>ノーマリィオフ接続はつなぎ</p> <p>ノーマリィオフ n-MOSFET</p> <p>最終形態の信頼性?</p>	
<h3>電流コラボスの抑制</h3>  <p>Current collapse Lgd=15 μm Lfp=1 μm Lfp=3 μm Vds(V) Variabilis Devices, et al., "High power AlGaN/GaN HEMTs for inverter", IEDM, 2010</p>	
<h3>コイル（インダクタ）の高周波化</h3>  <p>コイルに電流が流れると磁石になる</p> <p>コイルに電流を流すことでエネルギー（電流を消し続ける能力）を蓄える。</p> <p>磁束密度 B 磁心材料（軟磁性材料、高透磁率材料） 保磁力 残留磁化 永久磁石材料（硬磁性材料） 外部磁界 H ヒステリシス損失を極力小さくする 周波数が高い程損失が増大</p>	

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>大容量化</h3> <p>Solid-State Electronics 54 (2010) 660–664.</p> <p>横型デバイスでは、大容量化により、電極面積が拡大</p> <p>大容量化のためには、 縦型デバイスが必須</p> <p>GaN の自立基板が必須</p> <p>GaN の結晶育成は、 SiC 以上に難しい</p> <p>現行の大容量 GaN ハワードバイス</p>													
<h3>GaN 中欠陥の基板依存性と適用デバイス</h3> <p>10⁸ ~ 10⁹ cm⁻² 10⁹ ~ 10¹⁰ cm⁻² ~ 10¹⁰ cm⁻² 10¹⁰ ~ 10¹¹ cm⁻²</p> <p>転位低減層 Si 基板</p> <p>転位低減層 SiC 基板</p> <p>転位低減層 サファイア基板</p> <p>GaN 基板</p> <p>ハワードバイス 高周波デバイス LED (発光ダイオード) LD (レーザーダイオード) (パワードバイス)</p>													
<h3>GaN 結晶製造法</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>製法</th> <th>概要</th> <th>特徴・課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HYPE (Hydride VaporPhase Epitaxy) 法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> Clガスと金属Gaを高溫で反応 サファイア、シリコン等の基板上で成長 温度: 1000°C 気圧: 1気圧 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> GaN基板作成の主流技術 多數枚成長困難 界面成長困難 →大量生産に向さ </td> </tr> <tr> <td>Naフラクス法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> Ga+Na混合融液に窒素を溶解させ、GaN単結晶を成長 温度: 500~800°C 気圧: 50~100気圧 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高品質 低成本が期待できる </td> </tr> <tr> <td>アモニアアルキル結晶成長法</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 超臨界状態のアノニアにGaNを溶解させ、GaN単結晶を成長 温度: 300~500°C 気圧: 1000~3000気圧 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高品質 粒度的に大型化可能 →数枚成長可能 </td> </tr> </tbody> </table>	製法	概要	特徴・課題	HYPE (Hydride VaporPhase Epitaxy) 法	<ul style="list-style-type: none"> Clガスと金属Gaを高溫で反応 サファイア、シリコン等の基板上で成長 温度: 1000°C 気圧: 1気圧 	<ul style="list-style-type: none"> GaN基板作成の主流技術 多數枚成長困難 界面成長困難 →大量生産に向さ 	Naフラクス法	<ul style="list-style-type: none"> Ga+Na混合融液に窒素を溶解させ、GaN単結晶を成長 温度: 500~800°C 気圧: 50~100気圧 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質 低成本が期待できる 	アモニアアルキル結晶成長法	<ul style="list-style-type: none"> 超臨界状態のアノニアにGaNを溶解させ、GaN単結晶を成長 温度: 300~500°C 気圧: 1000~3000気圧 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質 粒度的に大型化可能 →数枚成長可能 	
製法	概要	特徴・課題											
HYPE (Hydride VaporPhase Epitaxy) 法	<ul style="list-style-type: none"> Clガスと金属Gaを高溫で反応 サファイア、シリコン等の基板上で成長 温度: 1000°C 気圧: 1気圧 	<ul style="list-style-type: none"> GaN基板作成の主流技術 多數枚成長困難 界面成長困難 →大量生産に向さ 											
Naフラクス法	<ul style="list-style-type: none"> Ga+Na混合融液に窒素を溶解させ、GaN単結晶を成長 温度: 500~800°C 気圧: 50~100気圧 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質 低成本が期待できる 											
アモニアアルキル結晶成長法	<ul style="list-style-type: none"> 超臨界状態のアノニアにGaNを溶解させ、GaN単結晶を成長 温度: 300~500°C 気圧: 1000~3000気圧 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質 粒度的に大型化可能 →数枚成長可能 											
<h3>日本の地位と将来展望</h3> <ol style="list-style-type: none"> パワエレ / パワードバイス産業の動向 WBG パワードバイスの優位性 WBG パワードバイスの課題 日本の地位と将来展望 													
<h3>過去の失敗事例～DRAMの場合</h3> <p>衰退の原因</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術流出 (韓国、台湾を早く見ていた) 装置産業化 (以前はデバイスメーカーが装置開発) 過剰な信頼性 (DRAM用にも10年保証) 決算の遅さ (経営の問題) 													

■ A1 【WBG パワーデバイスの技術開発動向】山本講師

<h3>最近のパワーデバイスの世界シェア</h3>  <p>パワーデバイス全体 インフィニオンが世界1位、三菱電機が2位 IGBT 三菱電機が世界1位、インフィニオンが2位、富士電機が3位</p>	
<h3>パワーデバイス業界の海外動向</h3>  <p>日本メーカー、300mm化を着手! 日本“國”は、SiC、GaNには支援しているが パワーデバイスを支える肝心の事には支援なし!</p>	
<h3>前門のインフィニオン後門の中国</h3>  <p>前門のインフィニオン後門の中国</p>	
<h3>SiC パワーデバイスのシナリオ</h3> 	
<h3>まとめ</h3> <p>▶ Si パワーデバイス パワーデバイスは、パワーエレメントを根底から支えている。 当面、主流は Si パワーデバイス（MOSFET、IGBT） ▶ ワイドギャップ半導体（WGS）パワーデバイス WGS はパワーデバイス用として優位な物性値を有する。 = WGS パワーデバイスへの期待大、ただし課題が多い。 ▶ WGS パワーデバイスの課題 SiC：結晶／ウェハ製造、高溫処理、モジュール化 GaN：ノーマリオフ、コラプス改善、纖型、受動部品 ▶ パワーデバイス産業の展望 今後、「前門のインフィニオン後門の中国」の中での 苦しい戦いが予想される。</p>	